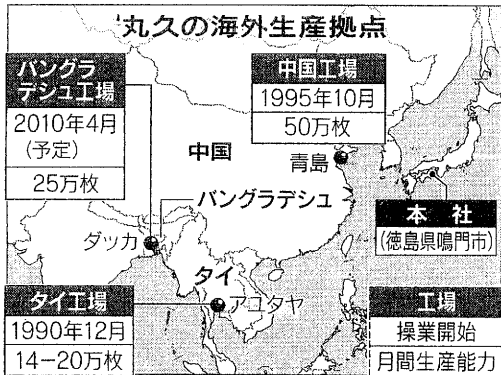


2009年(平成21年)5月26日(火曜日)



バン格拉デシュの新工場ではカジュアル定番商品を生産

工場は首都ダッカ郊外の敷地面積一万六千平方メートル、工場の延べ床面積は五千四百平方メートル。子供服を中心としたカジュアルの定番商品を生産する。月産二十五万枚の生産を予定し、当面は全量を日本国内の大手量販店や衣料専門店にプライベートブランド(PB)自主企画)商品などとして販売する。年間の売上高目標は六億八千万円。

今回の工場は第一期投資で、縫製とプリントを資で、第二期と第三期投資で染色工場と生地製造

欧米向け拠点に育成

工場は首都ダッカ郊外の敷地面積一万六千平方メートル、工場の延べ床面積は五千四百平方メートル。子供服を中心としたカジュアルの定番商品を生産する。月産二十五万枚の生産を予定し、当面は全量を日本国内の大手量販店や衣料専門店にプライベートブランド(PB)自主企画)商品などとして販売する。年間の売上高目標は六億八千万円。

子供服の丸久

バン格拉デシュに工場

海外生産 中国集中から脱却

子供服メーカーの丸久(徳島県鳴門市、平石雅浩社長)はバン格拉デシュに工場を建設、現地生産に乗り出す。このほど現地法人を設立、二〇一〇年四月に操業を開始する予定。第一期の投資額が約三億円、最終的な投資額は十億円を超える見込み。同社の海外工場はタイ、中国に次いで三カ所目。中国への集中を回避するとともに、欧米向け製品の生産拠点に育てる方針だ。

工場も建設する予定。第二期以降は、現地生産している中国とタイの企業との合併となる見込み。EPZは保税區に相当し輸出入関税、売上税などがかからないほか、法人税も十年間免除される。同社の地域別の生産比率は現在、中国七〇%、タイ二五%、国内五%。中国は現地従業員の賃金が月額二万円を超えており、十年間で倍以上になっている。下請け工場の経営不安などもあり、同社をはじめ、中国に進出

する企業は「チャイナアップスワン」と呼ばれる他地域へのリスク分散を迫られている。バン格拉デシュは月額賃金が約四千元で、中国の五分の一。若年層の労働力も豊富だという。今後の生産比率は中国四五%、バン格拉デシュ三〇%、タイ二五%になる見通し。中国は短いサイクルの低価格商品、タイはこれまで日本で生産していた高級品を生産する。同社によると、バン格拉デシュは繊維製品の輸

出国として中国、イタリアなどに次いで世界で六位。輸出先は米国、ドイツ、英国などが上位を占め、日本向けは全体の一%程度だという。欧米の主要アパレルは、バン格拉デシュ生産に力を入れているため、現地の技術水準は高く、同社は将来は欧米向けの商品の生産拠点にする方針。丸久は一九五九年創業。子供服を中心にイトーヨーカ堂やイオンなどにPB商品を納入する。年商は約五十四億円。